

第30回「青少年のための科学の祭典」京都大会 報告

第30回「青少年のための科学の祭典」京都大会は京都市青少年科学センター及び京エコロジーセンターを会場に11月8日から2日間開催されました。「ものづくりの街 まなびの街 京都から子どもたちへ」を大会テーマに掲げた本大会は、2日間で延べ5300人余の来場者がありました。当日は科学センター展示場も無料公開されました。

京都大会の概要

- 日時： 令和7年11月8日（土） 10：00～16：30
9日（日） 10：00～16：00
- 会場： 京都市青少年科学センター 及び京エコロジーセンター
- 主催： 「青少年のための科学の祭典」京都大会実行委員会
- 共催： 青少年と科学の会／公益財団法人日本科学技術振興財団
- 後援： 文部科学省/京都府教育委員会/京都市教育委員会/公益財団法人京都市環境保全活動推進協会/京エコロジーセンター/日本物理教育学会近畿支部/NHK/KBS 京都/エフエム京都/京都リビングエフエム/京都新聞/朝日新聞京都総局/産経新聞京都総局/毎日新聞京都支局/読売新聞京都総局/京都リビング新聞社/その他理科関係各研究会等
- 協賛： 英興(株)／京都科学機器協会／京都電子工業(株)／三和化工(株)／(株)島津製作所／(株)堀場製作所／村田機械(株)／(株)GSユアサ
- 出展数： 60ブース（うち企業ブース4）
- 内容： 参加者が自然科学や科学技術の原理や不思議を楽しみながら理解できる実験・展示・理科工作などの体験
- 大会テーマ： ～「ものづくりの街 まなびの街 京都」から子どもたちへ！
未来をつくる サイエンス&エコ～
- 出展者： 京都を中心とする教育関係者（小・中・高・大の教員や学生・生徒、科学センターの主事）と企業関係者およびボランティア
- その他： 入場料は無料、ガイドブックガイ・ドマップを無料で配布。
独立行政法人国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金」及び
公益財団法人東京応化科学技術振興財団第20回「科学教育の普及・啓発助成」の助成金を受けました。

大会当日の様子

今回は第30回記念大会という節目にあってブースの目標を60ブース、特別企画として「スタンプラリー」を行うなど、より多くの市民の皆様に「科学の祭典」を認知していただくための取り組みを進めてきました。また、昨年度より大会テーマを『「ものづくりの街 まなびの街 京都」から子どもたちへ！』とし、学生や企業の出展参加を広く呼びかけました。一方事務局組織の確立を目指しより新しい取り組みが展開できるように何度も話し合いながら大会運営にあたってきました。特に印刷物の費用削減のため参加者への配布物のデジタル化を図り、ガイドブックやガイドマップをホームページに掲載するなどいろいろなアイデアを出しながら協力して進めることができました。

財政基盤として本年も国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金助成活動」ならびに東京応化科学技術振興財団「科学教育の普及・啓発助成」からの助成金を受け取ることができました。また、青少年と科学の会・京都科学機器協会などのご支援と多くの企業より出展・協賛をいただくことができました。

当日は朝から受付前では開場を待つ多くの来場者の姿が見られました。学習棟エリア、エコロジーセンターエリア、展示棟エリアとそれぞれで展開しているブースではたくさんの親子連れが実験や工作を楽しんでいる様子が見られました。特別企画「スタンプラリー」にも多くの参加があり会場内に設置された十二星座をデザインした12個のスタンプを集めるためにガイドマップを片手に会場を歩き来する楽しそうな子どもたちの姿がありました。しかし昨年度から会場を展示棟まで広げたため展示場内の動線が良くなく一部のブースへの来場者の流れが途切れてしまうといったことがありました。会場を拡大したことでもいろいろと工夫を凝らしたブース内容を展開してくださっているにも関わらず大変ご迷惑をおかけしました。このことは次年度への課題として対策を考えていきます。



2日目は朝からの雨でしたが会場内には多くの来場者の姿がありました。特に小学校低学年や幼児の参加が多く親子で工作をゆっくりと楽しんでいる様子が見られました。また2つのサイエンスライブステージでは多くの来場者を前に8組が楽しいサイエンスショーを展開しました。



広報活動に関しましては今回も学習棟1階「交流の広場」での企業団体PRポスターの掲示、PR動画の放映を行いました。また学習棟2階フロアに100インチスクリーンを設置しPR動画を常時放映するようにしました。



こうして2日目16時には来場者やスタッフとも大きなケガもなく盛況のうちに無事に終了することができました。

今回の記念大会は「新たなステージへ」の一步として大きな意義がある大会でした。特に中高生がブース運営に携わったり運営スタッフとして大会に関わったりする事例が増えたことは大きな前進でした。また、中・高等学校の教員が部活動の発表の場として「科学の祭典」を教育活動の一部に取り入れる事例が増えてきました。学校現場で「科学の祭典」が「理科教育の場」として再評価されてきたことは、今後の「科学の祭典」の発展に大きく寄与すると考えています。

1日目のスタッフの「交流会」でもフロアにあふれるほどの参加者があり、高校生とベテラン出展者が「科学の祭典」の未来について語り合うといった場面が非常に印象的でした。これまで祭典に関わって来た世代が次の世代にその意思を引き継いでいく「持続可能な祭典」を1つのテーマとして取り組んでいく基盤が少しずつ見え始めています。



本大会を共に支えていただいた多くの方々が今後も「持続可能な祭典」を一つの目標として若い世代に引き継いでくださることを願っています。そのため私たちはより良い運営の在り方を模索し続けていきたいと考えています。

第30回「青少年のための科学の祭典」京都大会
事務局 橋本 年弘（京都市青少年科学センター）